

墨田区食育推進計画における 「定性的な評価」のワークショップ

実施報告



「定性的な評価」のワークショップの様子（令和6年2月28日）

「定性的な評価」のワークショップ概要

目的

「定性的な評価」は、計画の策定趣旨である「持続可能な協創」の食育を実現していくため、以下の点に着目し、「**すみだらしい食育**」について**明確化**するとしている。

- ①「食育」の実践活動で大切にしてきたこと、活動を通して生まれた「行動の変化」について
- ②区民等と区の両面から食育がどのように推進されているかについて
- ③「5つの行動のステップによる食育の展開（すみだ方式）」について

令和5年度は、令和8年度の墨田区食育推進計画改定に向けて、「定性的な評価」の**あり方について検討**を行い、令和6年度の評価のモノサシづくりへと展開させていく。

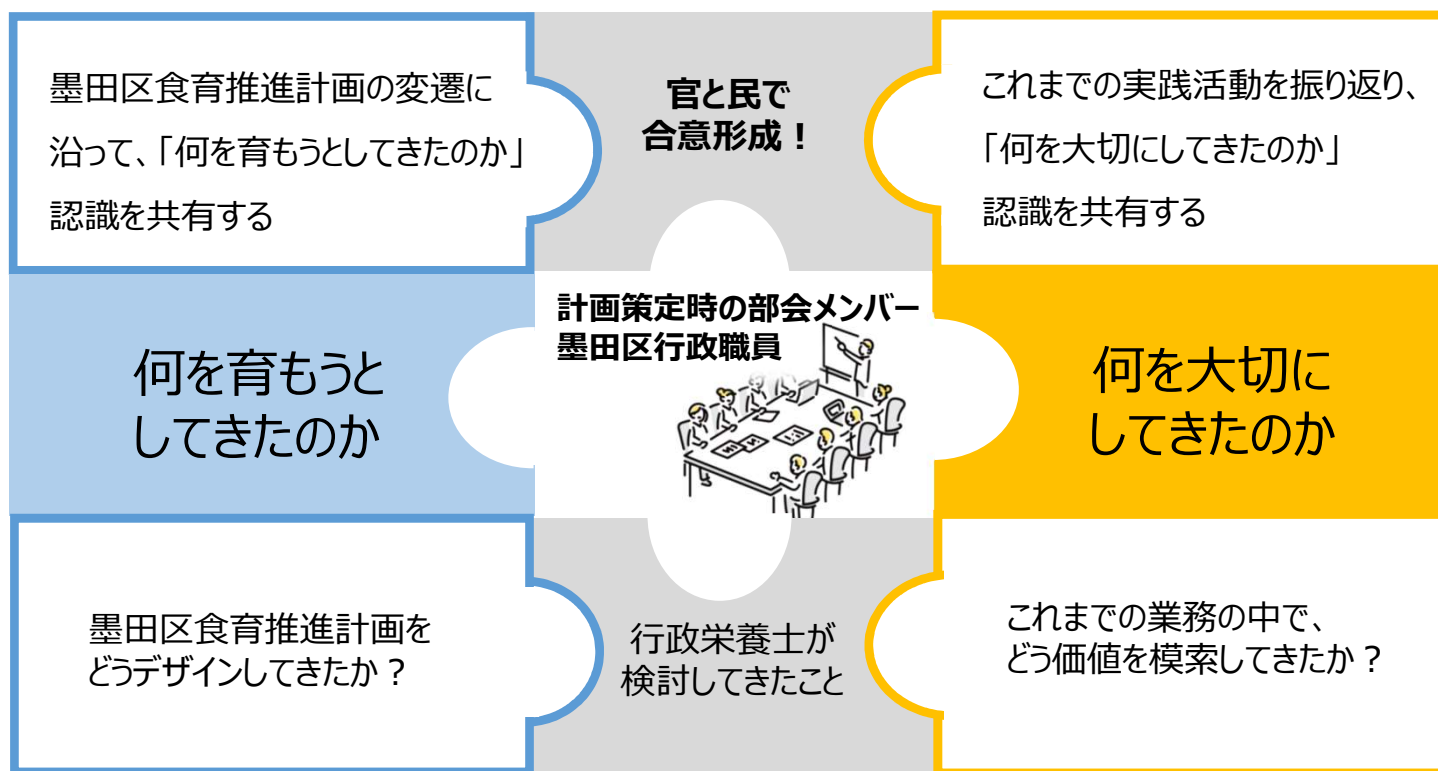
方法

墨田区食育推進計画改定作業の部会に参画した区民等及び行政職員によるワークショップを開催し、意見交換等により合意形成を図る。

「定性的な評価」のワークショップ概要

「定性的な評価」のワークショップ すみだらしいとは何か？ ～暗黙知（実践知）から形式知へ～

計画策定時の部会メンバーと行政職員でワークショップを行い、令和6年度の評価のモノサシづくりへと展開



定性的な評価を行うにあたり、検討材料となるこれまでの事例をピックアップする



具体的な取組について

「おこめ」と「くるぶし」の2チームに分かれて、以下の3つのワークを行った。

チーム内では区民等と区のそれぞれの立場から意見を出し合った。



ワーク（1）
何を育もうと
してきたのか

計画の変遷に沿って、官・民の取組時の意識を読み解き、両者の視点を重ねてみる。

（計画のどこを、どのように意識して、取り組んできたか）

ワーク（2）
何を大切に
してきたのか

実践活動の中で、官・民が実感したこと・気付いたことを掘り下げ、両者の視点を重ねてみる。

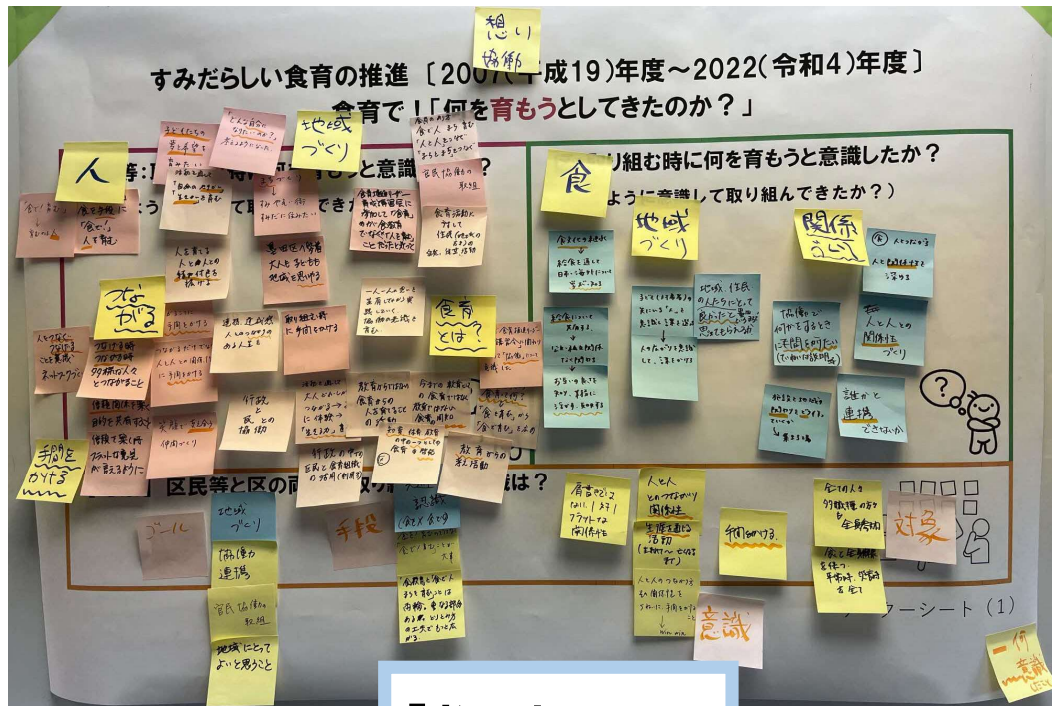
（活動する上で譲れないこと・心掛けていること 等）

ワーク（3）
すみだの食育の
実践事例をあげる

事例の大小・長短、成功・残念事例問わず、これまで行われてきた取組事例を官・民で多く出し合う。



ワークショップの結果 (1) 何を育もうとしてきたのか



「おこめ」チーム

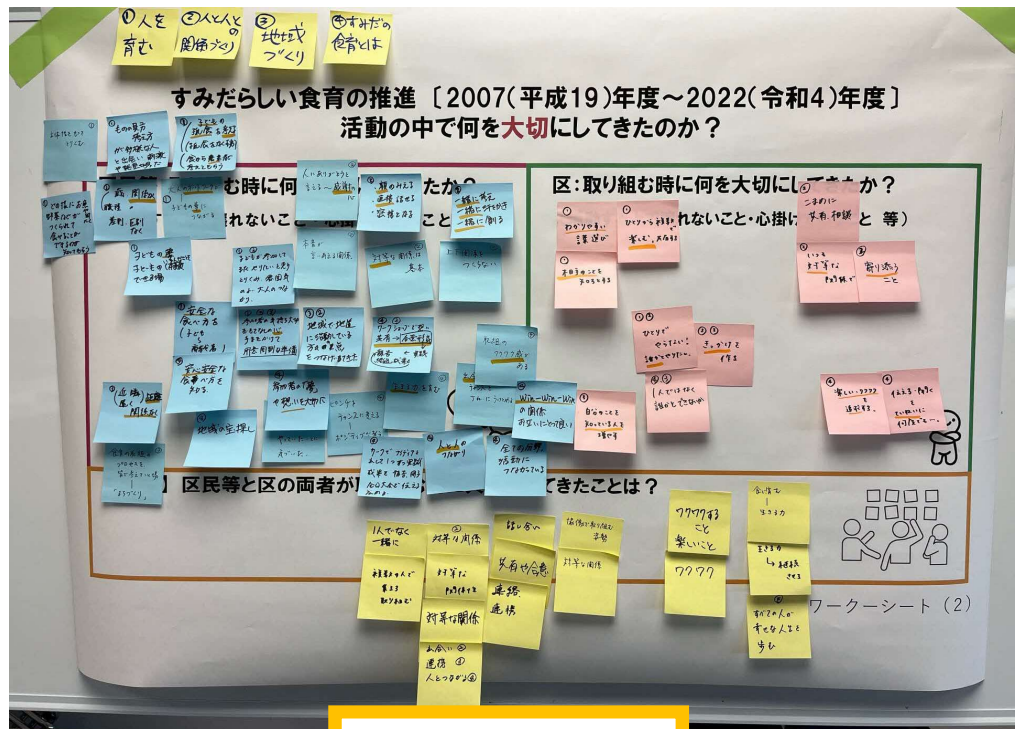
- **地域づくり**を行っていく手段として「食『で』」を考えていた。
- 取組を行う際には、**人と人がつながり、生涯を通じた活動**を意識していた。
- 対象として意識してきたこととして、**すべての人や平常時だけでなく災害時**というワードが出てきた。



「くるぶし」チーム

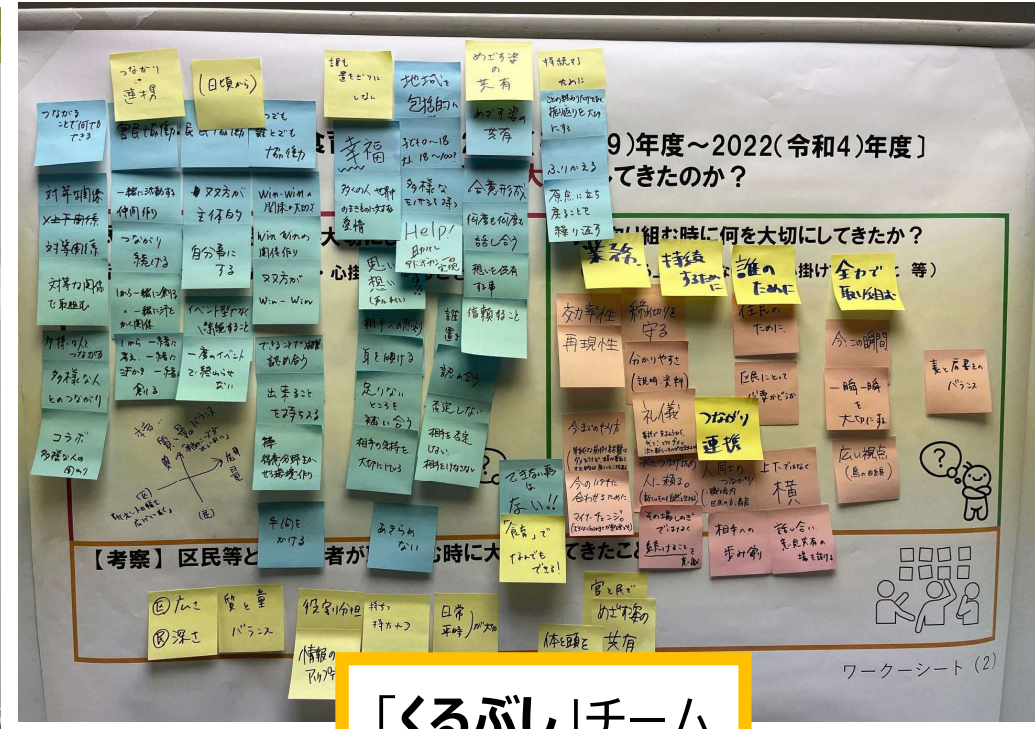
- 「食『で』」の「で」が大切（食はツール）
- 人の体に例えると、「**つながり**」や「**夢**」、「**協働**」を実現するに当たり、**現場で実践**をする**体の部分は民**、それを**理解して整理**するのが**頭の区**の役割だと思った。その体と頭をつなぐ首のところに「**共通理念**」があると、しっかり動いていくというイメージ。

ワークショップの結果 (2) 何を大切にしてきたのか



「おこめ」チーム

- ・「対等な関係」や「一人ではなく一緒に」、
「話し合う」、「合意形成」といったワードが
多くあがった。
- ・「ワクワク」や「生きる力」が共通して出てきた。



「くるぶし」チーム

- ・お互いに共通する言葉はあるが、捉え方は違う
という印象
- ・民は質やつながりの深さ、行政は間口を広げ
ていくことが役割ではないか。
- ・めざす姿の共有がないと、両輪で進んでいくこ
とができないので、大切にしていこう。

ワークショップの結果

(3) すみだの食育の実践事例をあげる

- ・芽室町との連携交流（すみとかプロジェクト）
- ・すみだ食育フェス
- ・福島県相双地域との交流
- ・給食でつながろう（保・小・中の給食連携）
- ・すみだ農園（墨田児童会館）
- ・こども商店街
- ・食育サークル（墨田児童会館）
- ・食育推進リーダー育成講習会
- ・防災まち歩き（墨田児童会館）
- ・すみだ青空市ヤッチャバ
- ・地域交流農園
- ・すみだ街かど食堂 等
- ・第10回食育推進全国大会
- ・食育推進全国大会への出展
- ・災害時食支援の取組



今後のスケジュール

